

# 特集 もっと知ろう

# 留学生 !!

= 『川崎市外国人留学生修学奨励金』支給制度 =

川崎市国際交流協会では、川崎市在住の外国人留学生に修学奨励金を支給し、その修学環境の向上と「地域の国際化」に貢献する留学生の育成を目指しています。

## 受給留学生の「市民交流レポート」

リスチ 李 素枝さん 台湾

【市民交流をした日】 2006年 10月 27~ 28日  
 【場所】 川崎市幸区南幸町 2-13-1 WE ショップさいわい  
 【内容】 寄付品やりサイクル品の仕分け、値札付け、アイロン掛け、商品陳列  
 【交流後の感想】

「WE ショップ・さいわい」は、アジアの女性たちの自立支援を応援する、NPO法人「WE 21ジャパン」と連携しているリサイクルショップ。寄付やボランティアで運営され、収益金をアジアの女性たちの自立活動に充てています。私はもともとお店作りが好きですので、商品の仕分け、値札付け、アイロン掛け、商品陳列などは気軽にやらせていただきました。また、店の方々やお客様、皆サークル活動のような和やかな雰囲気、とても楽しそうに見えました。本当に皆様から関心（外国人への関心）を持って頂いているということを実感しました。温かい言葉をかけて頂いて、とても嬉しかったです。私は皆様からパワーを頂きました。これからもまたこのようなチャンスがあったら、また、ぜひやりたいと思いました。

フ ェョウ 付 晔さん 中国

【市民交流をした日】 2007年 2月 5日  
 【場所】 神奈川県立大師高等学校  
 【内容】 中国語を勉強している高校生たちと餃子作り交流会  
 【交流後の感想】 私は日本へ来て、学校の先生とアルバイト先の人たち以外の日本人との交流は全然なかったので、2月5日に学校に向かっている時、楽しみにすると

もに、緊張もしていました。でも、大師高等学校に着いて、高校の先生たちの笑顔を見ると安心できました。いろいろな準備をしてから、いよいよ餃子作りの交流会が始まりました。餃子皮、具など、どういふうに作るのか、私が説明してから高校生たちと一緒に頑張って作りました。本当に楽しかったです。

このイベントに参加して、日本人との交流もできたし、いろいろ勉強できましたので、本当に良かったと思います。中国の文化などもっと日本人に伝えたいです。そして、日本人からもいろいろなことを教えてもらいたいため、これからも国際交流のために全力を尽くそうと思っています。

キム スヨン 金 昇衍さん 韓国

【市民交流をした日】 2007年 1月 13日  
 【場所】 ミューザ川崎シンフォニーホール  
 【内容】 国際ソロプチミスト川崎による女子留学生と音楽（ベルリン・フィル八重奏団）を楽しむ会への招待及び交流  
 【交流後の感想】 まず、このような素敵な機会を作ってください心から感謝しております。待ち合わせの場所だった川崎駅は初めてできれいでした。しかも、寒いなか国際ソロプチミストの方が迎えに来てくださいました。国際ソロプチミストの方々といろいろな話を交わすことができました。彼女たちの話から学ぶことも多くありました。今回の演奏会が開かれたミューザ川崎シンフォニーホールには多くの方がいました。ベルリン・フィルの名声は韓国にいるときから知っていました。その通り、演奏はすばらしかったです。曲は馴染みがあ

るのを中心にしていました。なかでも、日本の上原彩子というピアニストとの共演が一番印象的でした。一緒に参加した人たちとの交流も深まり、とても有意義な時間を過ごすことができました。

ユ ヒョンジョン 劉 炫定さん 韓国

【市民交流をした日】 2007年 3月 10日  
 【場所】 幸小学校  
 【内容】 講堂のガラス清掃  
 【交流後の感想】 普段は小学校に立ち寄る機会もなかなかないので、今回、このような機会を得られてよかったと思います。小学生たちが使っている体育館の窓ガラスをふきながら、自分の心もすっきりした感じがして本当にいい経験でした。そして、きれいになった窓を見て、他の人のために何かやったという気持ちで胸一杯になり、とてもやりがいのあったボランティアでした。進学の準備や試験のせいにして、もっとたくさんボランティアをしていないのが残念だと思います。

チャオ ヤ ゴク CHAU G A NGOCさん ベトナム

【市民交流をした日】 2006年 6月 7日  
 【場所】 幸小学校  
 【内容】 ベトナムのアオザイ（オゴザイ）について紹介しました。  
 【交流後の感想】 初めて日本の小学生と会って、子供の日本語を聞いて勉強になりました。

日本の小学生はことに女の子のほうが女の子より背がずっと高いことが面白かったです。クイズでアオザイを紹介しま

した。小学生の皆さんは活発でクイズを解く時の顔や、解けた後の顔や、きらきらした目は忘れられません。その時小学生にもたらしてもらった嬉しさは日本での辛い時の心の癒しと言えます。心から出会った小学生の皆さんに感謝の気持ちで胸がいっぱいです。

エアチャリットスグン スターシュー UERCHAL INUKUL SUTHAS NEEさん タイ

【市民交流をした日】 2006年 10月 20日  
 【場所】 幸小学校  
 【内容】 交流会に参加した。「マンファード」というタイのお菓子の作り方を教えてあげた。(2回目 11/ 17)  
 【交流後の感想】 私ははじめて小学生と交流をしました。今まで小学生たちの前で発表したことがなかったので緊張しました。タイのお菓子の作り方を紹介している時、小学生たちはよく聞いていました。紹介したあとで、小学生たちと材料を準備したり、タイのお菓子について話したりしました。おもしろかったです。小学6年生なのに、お菓子が上手に作れたので、すばらしかったです。交流会が終わってから、小学生の代表者が感想を言ってくれました。「今日、皆さんとすごした時間は楽しくて、作ったお菓子がおいしかった。」と言われて、うれしくてすごく感動しました。私は、このような子どもたちとの交流は、留学生にとつていい経験であり、また忘れられない経験だと思います。学校で勉強するだけではなく、社会に出て、いろいろな活動をするのは自分の将来に役に立つと思います。できれば、他の市民との交流会にも参加してみたいと思います。



留学生の皆さんの市民交流活動を通して、相互に貴重な体験をしていることが、すばらしいと感じました。また、留学生の視点からのレポートは日本人には新鮮に思えるでしょう。今後、もっと交流が盛んになるといいですね。

## インタビュー

富川市交換職員 朴 休宣さん (2007年 3月末 韓国に帰国)

Q：ご自身についてお聞かせください。

韓国の南・珍島で生まれ育ちました。高校生からは未滿で過ごし、陸軍生活を経て23才の時にソウルで会社勤務をしました。当時、公務員募集をしていた富川市で職員になり、現在も妻・息子・娘と住んでいます。私が日本に関心を持ったのは「2002年ワールドカップ」共催の時で、日本語も勉強しはじめました。その後、何度か日本を訪れました。そして、2006年度の交換職員として一年間、川崎で過ごしました。私の研修テーマは川崎市の先進的な高齢者福祉業務を学ぶことです。

Q：日本の生活で心に残ったことをお聞かせください。

交流推進課の職員をはじめとする皆様の温かい配慮です。特に自宅にお招きいただいた時は日本の家庭生活に家族のような情を感じました。また、週末には趣味の登山に行ったり、お酒を飲んだり、自分の国にいるようでした。スキーも好きなので、機会があれば日本でも行ってみたいです。また、市民館のハングルクラスに参加して、カラオケで韓国の歌を12曲も教えました。皆さんが上手になって、とても楽しかったです。私は子供の頃、先生になりたかったので。

Q：一年間交換職員として勤めていて、一番印象深かったことは何ですか？

やはり富川市と川崎市の友好都市提携10周年記念事業です。富川市長と富川市代表団が川崎市市庁舎を訪問した際、玄閣から市長室まで職員の方が並んで大きな拍手で歓迎してくれたのでびっくりしました。また、とどろきアリーナでは大型スクリーンに歓迎のメッセージが表示され、感動を受けました。

もう一つは「富川フィルハーモニックオーケストラ」の川崎市・富川市友好都市提携10周年記念公演のため、熱心に準備する実行委員会の皆さんの姿がとても印象的でした。残念だったのは音楽関係者の方の評価を得る機会がなかったことです。

Q：2006年度は節目の年でしたが、現在の両市の交流のあり方に対するご意見はありますか？

まず、川崎市の公務員交流事業について交換勤務期間は一年間の方が良いと思います。一年間は相手国で生活しないと、カルチャーショックがあり本当の良い部分やそうでない部分が見えてきません。交換職員の役割はすぐにはわからないかもしれませんが、両市交流の橋わたしの役割があります。この10年間のひとつひとつの積み重ねがあって今があると思うので、今後も交流関係を発展させるため継続するべきだと思います。

Q：韓国、または富川市についてもっと知って欲しいことがあればお聞かせください。

富川市はソウル中心部から電車で40分位の便利な所です。宿泊も安いですし、さまざまなおいしい食事を楽しめます。映画関係のテーマパークでは映画「野人時代」で実際に使われていた1930年代のソウル鐘路通りのオープンセットがあり見どころです。男寺党伝授館では韓国の伝統的踊りを「ナムサダン」という芸術集団が教え、公演もしています。

Q：10年後、両市の交流がどのようなになっている事を望まれますか？

今までも交流が行政だけではなく、市民・社会福祉・美術・学生と活発に行なわれています。これまでの10年はお互いを知り合うためであり、これからの10年はさらに成熟し、その関係が確固たるものになるでしょう。

Q：最後にメッセージがありましたら、お願いします。

期待と不安を持って始めた研修ももう終わりで。その間、手伝ってくれた皆さんに心から感謝申し上げます。我が国の諺に 이웃사촌 という言葉があり、全然知らない人もお互いによく知って過ごしてみると近い親戚のようになるという意味です。これからも、もっと活発な交流を通じてもっと友好関係が深まることを期待します。

ありがとうございました。朴さんには市民自主学級の講師をしていただいたのですが、ご指導にも真面目で温厚なお人柄がにじみでていました。参加している市民も喜んでいました。もっと交換職員の方と市民が直接交流できる機会があるといいのになあと感じます。 (青柳 尚子)